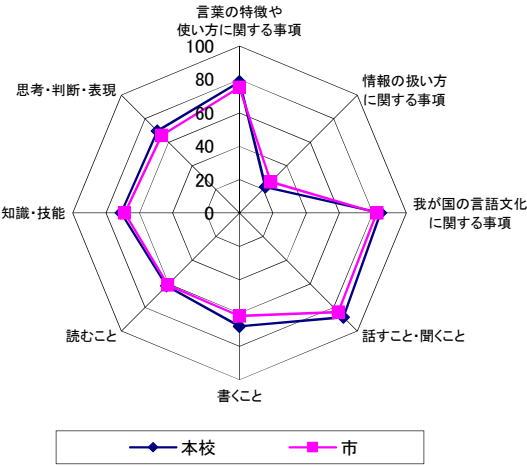


宇都宮市立岡本西小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	78.6	75.3	77.1
	情報の扱い方に関する事項	22.0	26.5	27.8
	我が国の言語文化に関する事項	84.6	82.4	81.0
	話すこと・聞くこと	88.3	83.9	84.2
	書くこと	67.9	61.7	64.5
	読むこと	61.7	60.9	61.0
観点別	知識・技能	71.0	68.8	70.3
	思考・判断・表現	69.5	65.8	67.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

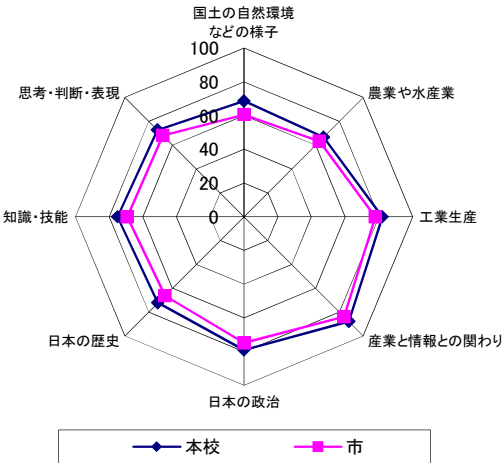
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や 使い方に関する事項	平均正答率が78.6%で市の平均正答率を3.3ポイント上回っている。 ○第6学年に配当されている漢字を読む設問や敬語の使われ方に関する設問では、市の平均正答率を全て上回っている。 ●敬語について理解し、正しく使っているかを問われる問題では、平均正答率が45.1%で市の平均正答率を6.9ポイント下回っており、正答率も低く課題がみられる。	・今後も継続的に、新出漢字のみならず、既習漢字の復習にも取り組み、日常的に使えるよう指導していく。 ・敬語についての基礎的事項を、教科書等を用いて確認し、日常の中から意識的に活用することで定着を図る。
情報の扱い方 に関する事項	平均正答率が22.0%で市の平均正答率を4.5ポイント下回っている。 ●情報と情報の関係について理解し、文章の情報を整理する設問では、平均正答率が8.8%で市の平均正答率を8.4ポイント下回っており、正答率も低く課題がみられる。	・普段の授業の中から本文を抜き出すだけでなく、本文中の情報と情報の関係について考え、整理するような課題に取り組ませるなど、様々な問題に触れる機会を増やしていく。
我が国の言語文化 に関する事項	平均正答率が84.6%で市の平均正答率を2.2ポイント上回っている。 ○語句の由来に関心をもったり、和語、漢語、外来語について問われている設問では、平均正答率が84.6%で市の平均正答率を2.2ポイントとやや上回っている。	・今後の学習でも、和語、漢語の違いについて復習する機会を設け、指導を継続していく。
話すこと・聞くこと	平均正答率が88.3%で市の平均正答率を4.4ポイント上回っている。 ○インタビューの内容を聞き取り、話の内容を捉えているかを問われる問題では、平均正答率が90.1%で市の平均正答率を6.3ポイント上回っている。	・授業の中で、グループ等で話し合う機会を多く設けたり、役割を決めて話し合いをする活動を取り入れたりしてきたことが成果となって表れたと考えられる。今後も話し手の意図を考えて話を聞く力を身に付けられるよう継続して指導していく。
書くこと	平均正答率が67.9%で市の平均正答率を6.2ポイント上回っている。 ○指定された条件(文の長さ、段落、内容)を満たして書く設問では、平均正答率が73.6%で市の平均正答率を6.1ポイント上回っている。	・普段の授業や課題の中で作文に多く触れ、字数や段落の分け方などの条件に合った文章を書く機会を設けることによって、書くことへの苦手意識を軽減することができたと考えられる。今後も条件を意識させながら書く活動を意図的に取り入れていく。
読むこと	平均正答率が61.7%で市の平均正答率を0.8ポイント上回っている。 ○文章全体の構成をとらえているかを問う設問では、平均正答率が70.3%で市の平均正答率を6.8ポイント上回っている。 ●登場人物の様子について、描写を基に捉える設問では、平均正答率が60.4%で、市の平均正答率を3.1ポイント下回っており、正答率も低く課題がみられる。	・宇都宮モデルを活用した授業を普段から丁寧にいったことが、成果になって表れたと考えられるので、今後も継続していく。 ・物語文や説明文において、文章の中から根拠となる叙述を抑えながら指導していくことで、登場人物の心情や様子を捉えたり、筆者の考えを正しく読み取ったりすることができるようにする。

宇都宮市立岡本西小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	68.6	60.5	65.8
	農業や水産業	66.7	63.3	66.0
	工業生産	82.1	77.9	75.7
	産業と情報との関わり	87.9	83.8	76.6
	日本の政治	79.1	74.9	74.1
	日本の歴史	72.3	66.3	68.3
観点別	知識・技能	75.0	69.3	71.4
	思考・判断・表現	72.7	68.1	66.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

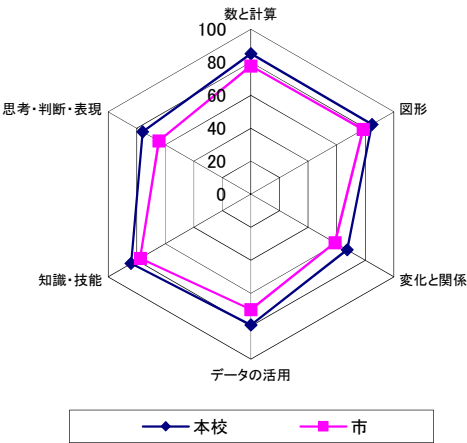
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	平均正答率が68.6%で市の平均正答率を8.1ポイント上回っている。 ○海洋に囲まれ多数の島からなる国土の構成について、地図をもとに考え、表現する設問では、平均正答率が74.7%で市の平均正答率を10.7ポイントと大きく上回っている。 ○季節風についての理解をもとに、太平洋側の気候の特色を雨温図から読み取る設問では、平均正答率が65.9%で市の平均正答率を10.5ポイントと大きく上回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・国土の主な地形の名称を確認するとともに、地図帳や各種の資料を活用し、方位や位置関係、範囲などの理解を深められるよう指導を継続する。 ・新聞やニュースなどを活用し、我が国の自然環境に関心をもてるよう指導を継続する。
農業や水産業	平均正答率が66.7%で市の平均正答率を3.4ポイント上回っている。 ○米の品質を高める工夫についての設問では、平均正答率が95.6%で市の平均正答率を9.2ポイント上回っている。 ●輸入などの外国との関わりにおける課題についての設問では、平均正答率が64.8%で市の平均正答率を2.4ポイント下回っている。	・引き続き、資料を効果的に活用して理解を深められるようにする。また、我が国の生産物の種類や分布等が自然条件を生かして営まれていることについて、教科横断的な指導を通して理解できるようにする。 ・自身も消費者の一員であることを自覚できるようにし、身近な生活と結び付けながら、生産だけでなく輸入に目を向けられるよう指導を工夫する。
工業生産	平均正答率が82.1%で市の平均正答率を4.2ポイント上回っている。 ○自動車の部品を再利用する目的について理解を問う設問では、平均正答率が93.4%で市の平均正答率を6.5ポイント上回っている。 ●日本の主な輸出品・輸入品についての設問では、平均正答率が60.4%で市の平均正答率を3.9ポイント上回っているが、正答率が低く課題がみられる。	・引き続き、各種資料や地図帳を活用し、我が国の工業生産における特徴について理解できるよう指導を工夫する。 ・教科書に出てきた統計資料の読み取り方を確認したり、複数の資料を関連付けて読み取ったりする活動を取り入れていく。また、読み取った内容についての特徴や相違点などについて考えたり、話し合ったりすることで、我が国の工業生産について理解を深められるよう指導を工夫する。
産業と情報との関わり	平均正答率が87.9%と市の平均正答率を4.1ポイント上回っている。 ○情報の発信と受信の注意点について考える設問では、平均正答率が96.7%で市の平均正答率を3.8ポイント上回っている。 ○産業における情報活用の現状について考える設問では、平均正答率が79.1%で市の平均正答率を4.3ポイント上回っている。	・引き続き、新聞・雑誌、1人1台端末などを活用し、調べたい内容について情報を集める活動を行っていくことで、メディアの特徴に気付けるようにしていく。 ・複数の資料を読み取り、その内容についてノートにまとめたり、話し合ったりすることで、産業と情報との関わりについて理解を深められるようにしていく。
日本の政治	平均正答率が79.1%と市の平均正答率を4.2ポイント上回っている。 ○基本的人権の尊重の基本的な考え方についての設問では、平均正答率が89.0%で市の平均正答率を7.7ポイントと大きく上回っている。 ●議会政治について、資料をもとに、考え表現する設問では、平均正答率が56.0%で市の平均正答率を3.0ポイント上回っているが、正答率が低く課題がみられる。	・国会のしくみや働きについて確認するとともに、その中で国や地方公共団体の政治は、国民主権の考え方の下、議会政治は国民生活の安定と向上を図る大切な働きであることを理解できるよう指導を工夫する。また、自分にはどのようなことができるのかを考え、表現する活動を増やしていく。
日本の歴史	平均正答率が72.3%で市の平均正答率を6.0ポイント上回っている。 ○鎌倉幕府の政治についての理解を問う設問では、平均正答率が83.5%で市の平均正答率を11.1%と大きく上回っている。 ●室町文化についての知識を問う設問では、平均正答率が58.2%で市の平均正答率を4.6ポイント上回っているが、正答率が低く課題がみられる。	・各種資料を活用して詳しく調べる活動を多く取り入れ、歴史上の出来事や、政治のしくみなどを理解できるよう指導を工夫する。 ・調べて考えたことや理解したことを整理してまとめる活動において、歴史の流れに沿って正しく理解し、適切に表現する技能を身に付けられるよう指導していく。

宇都宮市立岡本西小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	85.2	77.7	78.6
	図形	84.6	78.4	74.4
	変化と関係	67.4	58.7	53.0
	データの活用	79.3	69.9	57.2
観点別	知識・技能	83.9	77.5	74.0
	思考・判断・表現	75.8	64.5	58.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

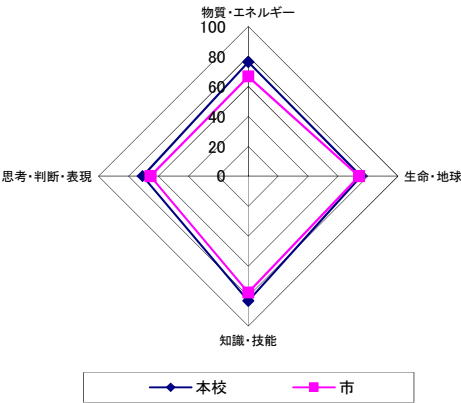
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は85.2%で市の平均正答率を7.5ポイント上回っている。 ○比較量、基準量が分数の場合において、比較量が基準量の何倍になるかを求める式を選ぶ設問では、平均正答率が74.7%で市の平均正答率を12.7ポイントと大きく上回っている。 ●2つの文字を使って表された式で、一方の文字の値から他方の文字の値を求める設問では、平均正答率が70.3%で市の平均正答率を1.2ポイントとやや下回っている。	・基本的な計算力を高めるために、今後もドリル等で練習を継続して行うとともに、まとめの学習の充実を図り、当該学年で身に付ける基礎基本の習得に努める。 ・文字を使った式に代入して答えを求める問題を解く機会を設けて、繰り返し学習することで、答えを正しく導き出す力を伸ばしていく。
図形	平均正答率は84.6%で市の平均正答率を6.2ポイント上回っている。 ○2つの角が与えられた三角形の1つの外角を問う設問では、平均正答率が78.0%で市の平均正答率を13.2ポイントと大きく上回っている。 ○ひし形の面積を求める式を選ぶ設問では、平均正答率が76.9%で市の平均正答率を1.1ポイントとやや上回っている。	・図形の面積を求めるためにどの部分の長さを測る必要があるかを考えることで、公式の理解を深め活用できるようにする。 ・デジタル教科書を効果的に使い、立体的な見方ができるように工夫していく。
変化と関係	平均正答率は67.4%で市の平均正答率を8.7ポイント上回っている。 ○表から面積と人数の割合を求め、どのプールが最も混んでいるかを考察する設問では、平均正答率が70.3%で市の平均正答率を15.4ポイントと大きく上回っている。 ●速さの単位の関係を理解し、分速を秒速や時速に直す設問では、平均正答率が57.1%で市の平均正答率を2.8ポイント上回っているが、正答率が低く課題がみられる。	・時速、分速、秒速の換算の復習を行うとともに、学習のまとめの際には、表に単位をまとめることで大きさを比較し、単位についての定着を図り、実態に応じた復習を行う。 ・単元の特性に応じて、習熟度別指導・少人数指導・TT指導など指導方法を工夫し、個に応じた指導に努める。
データの活用	平均正答率は79.3%と、市の平均正答率を9.4ポイント上回っている。 ○表から平均を求める設問では、平均正答率が93.4%で市の平均正答率を7.6ポイント上回っている。 ○ドットプロットから最頻値と中央値を読み取る設問では、平均正答率が82.4%で市の平均正答率を11.5ポイントと大きく上回っている。 ●ヒストグラムの特徴をもとに、平均値付近の記録がいちばん多いわけではないことを説明する設問では、平均正答率が56.0%で市の平均正答率を11.4ポイントと大きく上回っているが、正答率が低く課題がみられる。	・帯グラフや円グラフなどの身近なデータの活用だけでなく、ドットプロットなどの様々なデータの正しい見方ができるように、実際の資料を活用する機会を継続して増やしていく。 ・算数科のデータの活用だけでなく、全領域・他教科も通して自分の考えを筋道を立てて説明することを取り入れていく。また、「岡本西小授業スタンダード」の中にも位置付けてある「授業の振り返り」を行うことで、自分の考えを整理して表現する力を継続して付けていく。

宇都宮市立岡本西小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	76.2	66.5	66.3
	生命・地球	75.4	74.0	72.6
観点別	知識・技能	83.2	77.6	78.2
	思考・判断・表現	70.5	65.3	63.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率が76.2%で市の平均正答率を9.7ポイント上回っている。 ○メスシリンダーで水を正しくはかりとることができ、正しい手順の操作ができるかを問う設問では、平均正答率が90.1%で市の平均正答率を15.2ポイントと大きく上回っている。 ●未知の水溶液を特定する実験の方法を計画できるかを問う設問では、平均正答率が25.3%で市の平均正答率を7.5ポイントと下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・実験器具の操作が身に付いてきている。引き続き実験計画を丁寧に立てさせ、意図的に体験を増やしていく。 ・目的や問題意識をもって、実験に取り組ませるとともに結果から分かることを自分の言葉を使って説明する活動を多く取り入れることで、考えを深められるようにする。
生命・地球	平均正答率が75.4%で市の平均正答率を1.4ポイント上回っている。 ○野生のメダカが何を食べるかを理解しているか問う設問では、平均正答率が92.3%で市の平均正答率を4.4ポイント上回っている。 ●月の形から、太陽がある方位と観察した時刻を考察する設問では、平均正答率が52.7%と市の平均正答率を7.0ポイント下回っている。	・植物や昆虫などの学習では、観察の仕方を十分踏まえ、観察の時間を十分に設け、観察カードに記録させる活動を引き続き継続していく。 ・月の光っている側に、太陽があることの理解が不十分である。実際に観察したり、モデルや図で表したりして多面的に調べる活動を通して理解を深めることができるよう指導していく。